



社会福祉法人 聖音会

第4号

# 明日へ

平成16年7月15日発行  
児童養護施設鎌倉児童ホーム  
(発行責任者 園長大久保稔)

〒248-0017

神奈川県鎌倉市佐助1-6-6

電話 0467-22-0424

FAX 0467-22-1766

鎌倉の子どもたちは、平成15年3月竣工の新園舎のゆとりのあるマンション風の8つの家でそれぞれの生活を力強く営んでおります。

旧園舎は昭和40年竣工でしたが、大きな一棟の建物でも、中は9つの家のアパート風なものでした。その施設設備は、今となっては時代遅れのものですが、アパート形式は、当時としては画期的なものでした。鎌倉保育園から鎌倉児童ホームへの小規模グループケア(ユニットケア)の展開は、建物的には、アパートからマンションへの進展でした。

ところで、国は今年度予算で「小規模グループケアの推進」を打ち出しました。最近の手厚いケアを要する児童に対しては、できる限り家庭的な環境の中で、職員との個別的な関係を重視したきめ細かなケアが求められるとし、既存の施設におけるケア単位の小規模化を図り、これに対応した職員を配置するというものです。

具体的には、小規模なグループによるケアを行なう施設整備として、日常生活に必要な児童の居室、台所、食堂、浴室及び便所等のすべてがあるとともに、専用の出入り口があることが望ましいとのことでありまして、1施設1カ所に職員1人を増員するというものです。

この条件を満たすのに多くの施設がご苦労されている中、当園は冒頭で「マンション風の8つの家」と書きましたように、1施設1カ所ではなく、8つの家すべてを対象にして職員8人の増員をしていただきたいところです。そうなれば、学童のみの家の職員配置を2人から3人にできるからです。2人配置では、週の内、4日は1人勤務です。

とはいえ、この『明日へ』でもご覧いただけるとおり、鎌倉児童ホームは前進



# 昨 年 一 年 間 の で き ご と と

## 夏期転住



去年の夏期転住は、今までの夏期転住をふり返り、心機一転してもう一度「自然と触れ合う」というテーマを重視しました。

夏期転住は普段と違った生活ができる機会です。自然にかこまれて、クーラーがなくて暑かったり、虫がたくさんいすぎて嫌だったり、電気やガスがなくて不便であったりという経験を通して、今の生活がどれだけ恵まれたものなのか、少しふり返ってみるいい機会になればと考えました。

心機一転ということで、従来と違った場所で、一泊にて行ないました。「小田原市いこいの森」というキャンプ場で、初日は高校生も幼稚園も一緒になってドッチボールやバーベキュー、キャンプファイヤーなど自然とのふれあい。二日目は希望によってグループに分かれ「釣り」「探検」「ナイトハイク」「箱根5区走」「海水浴」「サバイバルゲーム」「わんぱくランド」などで思いっきり遊びました。子どもたちは朝4時から虫取りをしたり、



## 今年「サマートライ」

今までの夏期転住は、園全体として動いていましたが、年齢差が大きい事からそれぞれの年齢層のやりたい事を十分に汲む事ができなかったり、全体で動くので大きな枠でしか活動できないなど、色々な制限がありました。この改善方法として、今年は希望するグループごとの小さい単位で活動する事にしました。

毎日、子どもと関わる中で「こんな関わりをしたら喜ぶんじゃないか」「こんなことを一緒にやってみたいな」と感じる事が多いのですが、それを実行する場がととても限られているのが現状です。今回、ほんのきっかけには過ぎませんが、心の片隅にある「やってみたい」を実現する機会を目指します。

この夏、子どもたちに「何かに挑戦したり、試してみたりする」という気持ちのこもった活動にしてもらいたいです。その中には、自分たちで「作る」旅にしてもらいたいという意味合いも含めて伝えていただけたら嬉しいなと考えていま

# これから目指すこと

## 夏祭り

2002年度は仮園舎の手狭さから中断しておりましたが、新しい園舎が建ったこともあり、2003年はまったく新しい気持ちで企画いたしました。

地域と鎌水の交流のできる鎌水を目指し、その第一歩として夏祭りを考えました。

児童養護施設というと日常どういふことが行われているか案外知られていなかったり、同じ地域の中にあるにも関わらず近所付き合いのしにくいところという印象があるかもしれせん。そこで新しい園舎も建った今、地域に開かれた施設を目指そうと考えました。

例年の盆踊りや夜店だけでなく、昼間から始めてフリーマーケットやライブ・映画上映・作品展示・壁画制作・喫茶室・ザ・リアル・ストラックアウト・パソコンで遊ぼう・鎌水 アピール・ゲーム（ヨーヨー・輪投げ・人力車）・エコマネー・似顔絵・ピ



## 今年は・・・

今年の夏祭りの目標は、ずばり「**近所づきあい復活計画!**」です。お互いが支え合う地域、可能な限り地域に開かれた施設を目指し、交流のきっかけにしたいと考えています。具体的には以下の6項目を目指します（括弧内はその方法）

地域に鎌水の様子を知ってもらう（鎌水 アピール 2004）

皆が「自分にもできること」を出し合い、交流する中で人と人とのつながりを深める（各家の出し物・職員の企画・地域の企画）

地域へ公共設備の有効利用の宣伝や子育てに対する意見交換の場としての活用（コミュニティーセンターとしての機能と今後のあり方の模索）

ボランティアの募集・NPOとの連携（とりあえず行事関係のみ）

こちらの職員や子ども達が地域に貢献できることがあればやる（地域行事の参

## 勝村道場

2003年秋から、元職員で総合格闘技「修斗」の世界ランク8位 勝村周一朗さんによる、勝村道場が始まりました。2階講堂にて週2回、水曜日の16時からレスリング教室として幼稚園から高校生まで、たくさんの子どもが汗を流し、水曜日の夜と日曜日には格闘技部が活動しています。



今後の道場について、勝村さんはこう語ります。「今現在は、子ども達のレスリング教室は鎌倉の子達だけなんですけど、いずれは地域の子達も呼んで指導したい。施設の中に格闘技道場があって地域の子達が集まってくる、そういう状況を作りたい。交流がないままだと施設が地域から孤立して、誤解を受けてしまう。『施設を起点に皆が集まる仕組み』を作りたい。子どもが来ればその親も来てくれて、理解してくれると思います。」（6月26日 産経新聞より）

## プレイルーム始まる

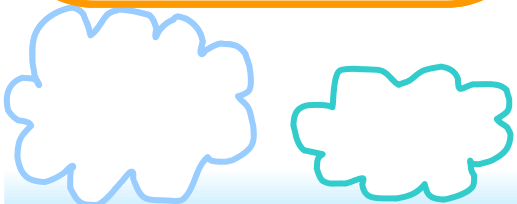
新しい園舎の1階には、プレイルームができました。2003年4月から三人の心理療法士の方も入り、プレイルームでの遊びやおはなしなど、たくさんの子ども達が充実した時間を過ごしています。



## 宿泊室の活用

センター棟3階にある二つの宿泊室は、ミニキッチン・ユニットバスを備えたワンルームマンション形式です。

去年は、お盆・年末年始に卒園生が帰省してくる場、子どもと保護者の方の関わりあいの場、実習生の宿泊、そして鎌倉市から依頼を受けた母子の一時保護などにも



## 子ども農園

仮園舎跡地が、2003年から「子ども農園」として生まれ変わりました。本田さんの御尽力を得て、去年はたくさんの大地の恵をいただきました。鎌ホの子ども達が通う御成小学校5年生の授業にも活用されています。

### 【去年の成果】

- ・きゅうり
  - ・トマト
  - ・なす
  - ・スイカ
- などなど！



## 今年は…

昨年とおなじ野菜や果物に加え、新しく枝豆やとうもろこし、秋にはさつまいもの収穫が期待されます。

去年のおいしさに味をしめたのか、今年は一段とカラスやスズメが多いのですが、様々な『鳥対策』を講じる予定です。

## 講堂の活用

2階の講堂は、雨の日の子どもの遊び場やクリスマス会・卒園式等行事の舞台として使われています。

しかしそれだけでなく地域の方にも気軽に使ってもらえるよう掲示板で呼びかけました。地域のコーラスグループや学習会など、様々にご利用されています。



## 掲示板の活用

鎌倉児童ホームの園舎は、市役所通りに面した立地の良い場所です。そこで掲示板を作り、ボランティアの呼びかけや講堂貸し出しのお知らせ、自転車寄付の募集などを張り出しました。おかげで子ども用自転車が



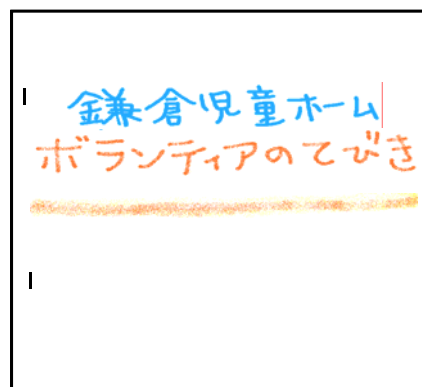
# 今年度の取り組み・・・

## 【ボランティアさん 大活躍！】

近年、個々の子どもたちのニーズや発達に対し、個別に対応することが必要になってきました。多くの子どもたちが心のケアを必要とし、より特定の大人との愛着関係の再形成や、信頼関係を築いていくことが重要になってきています。

しかし職員の配置基準の基本は昭和51年から変わらず、実質的には1人の大人が10人前後の子どもたちをみるという厳しい状況です。職員の数が決定的に足りません。

そのなかでは10人前後と大きい生活単位ではありますが、そこに多くのボランティアさんに関わっていた



学習	公文	生活	養育補助	教室	合計
39名	14名	3名	3名	13名	72名



教室ボランティアの内訳は「器楽」「習字」「お菓子作り」「絵本の読み聞かせ」「華道」「絵画」「パソコン」「茶道」などで、子ども達に様々な体験の場を提供して下さっています。

また今年度から鎌倉女子大学の学生さんが遊ぶ会を開いてくださり、隔週土曜日に20名前後で「海へいこう！」「七夕をしよう！」などの企画で関わって下さっています。



ボランティアさんやその内容が増える一方で、気をつけなければならない点もあります。ボランティア活動に無理がないか、子どものためになっているか、ボランティアさんとの連携は充分か等、ふり返りやフォローも大切です。

4月8日に公文ボランティアミーティングを開き、今後の進め方等を職員とボランティアさんが一緒に話し合いました。7月17日には学習ボランティア懇談会を開く予定です。ボランティアさん同士の交流や情報交換も積極的に行っています。



## これから目指すもの・・・

### 【みんなでステキな鎌ホを作れ！】

2003年11月に、『このホームの在り方・自分を問う』鎌ホ Motto アンケートを実施しました。「5年後10年後、どんな鎌ホの姿がステキだろう」「それには、今自分は何をすればいいのだろう？」などの質問に、2003年度から導入したパソコンを使ってアンケートに答える方式をとりました。そして多くの職員からの回答をまとめ、過去の振り返りを経て、鎌ホ Motto を作り出しました。

この Motto を踏まえ、子どもも大人もお互いを思いやって、毎日生活を積み重ねています。もちろんこの Motto も絶対ではないので、常に新しいものを考えつつ、時代のニーズに合った養護をしていきたいと考えています。

#### 鎌 ホ M o t t o

- 1、みんなの為になるべく明るく元気につとめる。
- 2、ステキな自己実現に向け目標・夢を持つ。
- 3、温故知新・チャレンジスピリッツを大切にす。
- 4、お互いの良さ・違い・経験を認め尊重し合う。
- 5、課題に対してしっかり議論し、人間関係に悪影響させない。
- 6、抽象的批判のみせず、生産的なアイデア・改善案を出す。
- 7、子どもとの関係性を重視し、ルール等共に作る意識を持つ。
- 8、子どもが癒される場・目標を持って成長できる場となるよう援助。
- 9、適切なケアをするために、日々専門性（特に予防）を高める。
- 10、ケアの標準化と個別化、裁量と責任の意味を理解する。
- 11、社会的ニーズを理解し、職員チームとして役割と連携を大切に

**田口 雄太**

気合と根性で  
頑張りますので、  
みなさんどうぞ  
よろしくお願いします！

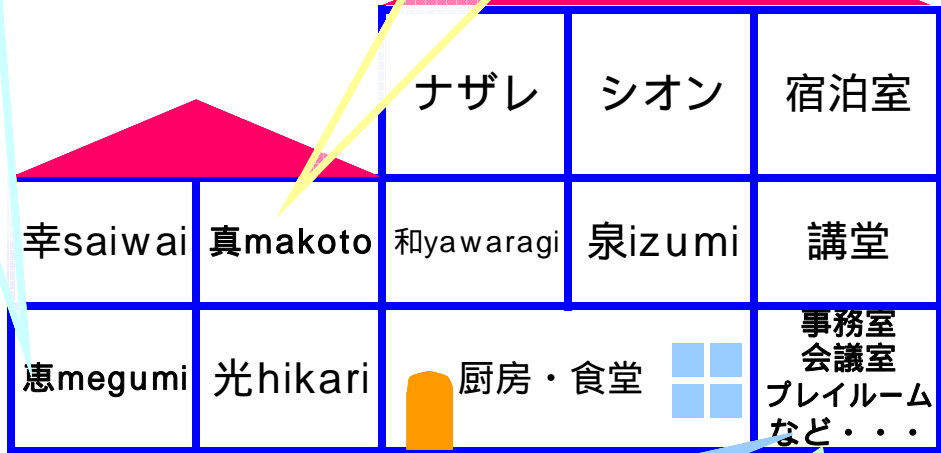


**長田 奈緒子**

ゆったりした気持ち  
で子どもと向きあっ  
ていきたいなぁと  
思っています。  
難しいかな。  
ん～でも理想は



**2004年度**



**加藤 祐子**

こんにちは、  
5月から心理  
職員として  
来ています。  
子ども達の  
生活の質の  
向上に努めていきたいと思ひます。よ



**岡本 峰淑**

はじめまして。  
岡本ミネヨシと  
言ひます。子ど  
も達とは、一緒  
に体を動かす事  
を通して、関わっていければいいかな、と思っ



**編集後記**

新園舎で迎える二回目の夏が来ました。一年経っただけでも、大きな窓ガラス・広くて長い廊下・たくさんエアコンフィルターなど、掃除が必要なところがいっぱいです。掃除してもまた汚れてしまい、「どうしてすぐに汚れちゃうんだろう！」と思ひます。でも、それが人が暮らしている証拠。たくさん子ども達と、ここに集った大人達が、ここで共に生活している証だと思ひます。「汚れたらまたきれいにすればいい」とおっしゃってくれるたくさんのボランティアさんにも協力していただひています。隅々

